



たこうまつ

多 幸 松

第88号

令和8年2月
発行

新年のごあいさつ

— 国立病院総合医学会の準備を経験して



国立病院機構石川病院 院長 伊勢 拓之

皆様それぞれに良い年を迎えられたことと存じます。今年は干支の組み合わせから「ひのえうま」と呼ばれ、俗説として火災が多くなるとか、その年生まれの人の性格に特徴のあることなどが語られた時期もありましたが、現在そのような迷信を信じる人は稀です。勢いのある年、飛躍のチャンスという捉え方もできま

すので、良い方向へ進みたいものです。

さて、60年周期のひのえうまほどの稀さではありませんが、金沢では12年ぶりとなる国立病院総合医学会という学会が昨年11月に2日間の日程で開催されました。これは国立病院機構の病院職員が全国から集い、全職種がそれぞれ活発に発表や意見交換を行う催しで、毎年秋に各地の病院群が持ち回りで運営しているものです。ゲノム医療、医療DX、手術支援ロボットなど最新の話題も扱いますが、専門に特化した一般の学会に比べると多職種での協力を議論しやすい雰囲気を感じます。今回は金沢医療センターが中心となり石川県内にある七尾病院、医王病院とともに石川病院も企画と運営に携わる機会を頂きました。私個人としては、多岐にわたる演題の分類整理、一部座長の依頼などわずかな手伝いだけでしたが、5000人規模の大きな学会の舞台裏を知る機会は貴重でした。

最も印象に残ったのは、金沢ならではの特色を備えた学会となったことです。能登の震災からの復興は学会全体の基調テーマであり、災害医療の問題点と今後の対策を様々な角度から議論できました。たびたび能登を訪れ交流と支援を続ける女優・常盤貴子さんを迎えて、医療だけではない地域のつながりを認識できました。また、交流会では郷土料理や地酒とともに御陣乗太鼓、金沢素囃子が披露され、北陸らしいもてなしが好評を博しました。学会運営はすべて会員の参加費で賄われるため、魅力あるプログラムを揃えて多くの方に参加して頂くことが重要と学びました。

次にスマートフォンの便利さを再認識しました。昔は重い冊子として手渡されていたプログラムと抄録集は近年アプリでも提供され、事前に各自ダウンロードすれば閲覧できるようになっています。付箋やメモ、検索機能は言うまでもなく、選んだ演題を聴き逃さないようスケジュールとして示す機能も備わり便利なツールとして定着しています。ポスター発表では、広い会場で小グループごとにマイクと拡声器で討論が同時進行するため互いの音声を聞き取りにくいことが難点でした。今回新たな試みとして、やはりアプリを各自導入し自分のグループのチャンネルを選べばそのメンバーの音声だけを聴けるシステムが登場し討論に集中できました。他学会の例ではAIによる外国人講演の同時通訳も実用化されており、スマートフォンの普及を背景に正確で快適な情報伝達が実現しています。

振り返ると若い頃は自分の専門性を高めることが学会参加の目的でしたが、今回は学術面に加えて実践面の発表も多く、日常の困りごとや苦勞の共有からヒントをいただく場でもありました。内輪の集まりと言えはその通りですが、専門性の高い研究センターや急性期病院からセーフティネットまで国立病院機構ならではの多彩な病院構成が多様な意見やアイデアの源泉となっており、79回を重ねる本学会の意義を改めて感じました。





第79回

国立病院総合医学会に参加して

アカシア病棟副看護師長 清水 恵

11月7日と8日に第79回国立病院総合医学会が金沢市の県立音楽堂を中心とした周辺施設で開催されました。この学会は、病院の進化や医療現場での組織改革を議論する場として重要な役割を担っており、医療機関で働く我々にとって有意義な機会となっています。また、病院経営の視点からのアプローチを学び、最新の医療技術や経営戦略、医療機関の内部環境や職員のメンタルヘルスを強化し、患者へのサービス向上を目指す内容を学ぶ場でもあります。今回の学会に私はポスター発表で参加する機会を得ました。私は重症心身障害者の意思決定支援の取り組みについて発表をし、その時の質問から今後、重症心身障害者の意思決定支援を継続的に行う病棟内での取り組みが課題になると感じました。発表で経験したことを、次回に生かしていきたいと思います。今回の学会参加で、他の参加者の発表で様々な取り組み内容を知ることができ、新たな知識を得る機会に恵まれたことに感謝し、これからの看護に生かしていきたいです。

主任栄養士 嶋田 康久

2025年11月7日から8日にかけて金沢市で開催された第79回国立病院総合医学会に参加しました。私は、「地域包括ケア病棟と障害者病棟への栄養サポートチーム介入による効果の比較検討」をテーマにポスター発表を行いました。

当院では、栄養サポートチーム (NST) 加算の算定を開始してから2年が経過しており、今回の発表ではNSTが介入した患者に対する効果について検討した内容を報告しました。これまでのチーム活動を振り返るとともに、今後のNST活動につなげるための課題や方向性を整理する機会となりました。

また、本学会は全国の国立病院機構の施設が集まる場であり、神経・筋疾患や重症心身障害児者に関する取り組み、症例報告が多数発表されていました。これらの発表を通じて、自身のこれまでの経験と照らし合わせながら学ぶことができる時間となりました。

トピックス



骨密度検査のすすめ

～要介護を防ぐために～



診療放射線技師長 堀川 良太

ご存知ですか?「骨の健康」と「長生き」の密接な関係。私たちの骨は、体を支え、運動を可能にするだけでなく、カルシウムを貯蔵する大切な役割を担っています。しかし、加齢とともに骨の密度(骨密度)は低下し、骨粗しょう症という病気になりやすくなります。骨粗しょう症になっても自覚症状はほとんどありませんが、放置すると骨折しやすい状態になってしまいます。特に、一度骨折すると、次から次へと骨折を繰り返すリスクが高まります。これが「ドミノ骨折」の恐ろしさです。

骨粗しょう症による骨折で最も多いのは、背骨(椎体)の骨折と、足の付け根(大腿骨近位部)の骨折です。最初の骨折(多くは背骨の骨折)は、知らない間に起きていることも多く、「少し腰が曲がったかな?」程度で済んでしまうこともあります。しかし、背骨の骨折は姿勢の悪化や痛みを引き起こし、身体活動量を低下させます。最初の骨折を起こした人は、そうでない人に比べて2倍～4倍も次の骨折を起こすリスクが高まります。特に、背骨が変形すると、体全体のバランスが崩れ、わずかな転倒でも手首や、さらに深刻な大腿骨の骨折につながりやすくなります。大腿骨の骨折は、寝たきりの最大の原因の一つです。骨折後、約半数の人が歩行能力を失い、要介護状態となります。さらに、骨折から1年以内の死亡率も高まるということが知られています。

そこで骨密度検査は未来の健康への「投資」です。

ドミノ骨折の連鎖を断ち切り、活動的な生活を長く続けるための鍵は、骨粗しょう症になる前、あるいは最初の骨折が起きる前に、自分の骨の状態を知ることです。当院では、超音波(エコー)を用いた骨密度測定装置で検査を行っています。かかとの骨に超音波を当てて測定するため、痛みがなく着替えの必要もありません。検査時間は短く、手軽に受けていただけます。またX線を使わないため、放射線被ばくの心配がありません。

この検査でご自身の骨密度を知ること、骨粗しょう症の予防や早期治療につながり、将来の要介護状態や寝たきりのリスクを大きく減らすことができます。

骨密度が低いと指摘されたら、食事や運動の見直し、そして適切な治療を開始することで、骨折リスクを効果的に下げることができます。

「転ばぬ先の杖」として、まずはご自身の骨の状態をチェックしましょう!



トピックス

健康管理の第一歩は「体重を知ること」から ～体重測定に関する調査結果より～

栄養管理室長 佐藤 英成

皆さんは、ご自身の体重を正しく把握していますか？

「体重の話なんて聞きたくない…」という方もいるかもしれません。でも、体重は私たちの健康状態を映す大切なバロメーター。特に高齢になるほど、体重の「減少」が重大な健康リスクとなることがあります。

そこで今回は、皆さんがご自身の体重をどの程度把握されているのかを知るため、当院の「看護の日」や出前講座、生活習慣病教室の参加者の方々を対象に、体重測定に関する調査を実施しました。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

なぜ体重の把握が大切？

病院では入院時などに、過去と比べた体重の変化から栄養状態を評価しています。

例えば、50kgの人が半年前と比較して2.5kg以上(=5%)減っていたら注意が必要です。痩せ型の方(例:40kg)では、2kg減でも栄養状態の悪化と判断される可能性があります。

もちろん、ダイエットなどによる意図的な体重減少であれば問題ありませんが、「意図しない体重減少」は、栄養不足や病気のサインかもしれません。

調査結果：意外と測っている？でも記録は…

アンケート(回答者99名)の結果は以下の通りでした。

【表1】体重の測定頻度と記録の有無

測定頻度	割合	記録あり	記録なし	無回答
毎日	39.4% (39名)	30.8%	61.5%	7.7%
毎週	19.2% (19名)	15.8%	73.7%	10.5%
毎月	20.2% (20名)	30.0%	50.0%	20.0%
測定していない	21.2% (21名)	—	—	—

約8割の方が定期的に測定しており、中でも毎日測っている方が多くいました。一方で、「記録している」方は全体の約25%にとどまっています。

【表2】「体重がわからない」と答えた方の測定頻度

項目	測定していない	毎月	毎週	毎日	計
本日の体重	5名	1名	0名	0名	6名
半年前の体重	10名	5名	4名	6名	25名

アンケート実施日の体重を「わからない」と回答した方は6名でしたが、半年前の体重については25名の方が「わからない」と回答され、そのうちの半数以上が、実は定期的に体重を測っていた人でした。つまり、記録をしていないと、後から正確な変化を把握するのが難しいのです。

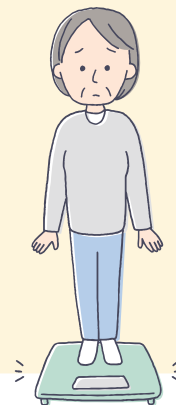
表題にもありますが、健康管理の第一歩は「体重を知ること」からです。

体重を記録することは下記の点で役に立ちます。

- ① **体重の変動から、体調や栄養状態のチェックに役立ちます。**
- ② **測るだけでなく、記録することでご自身やご家族の安心にもつながります。**
- ③ **体調が悪くて自分で説明できないときも、家族が記録を見て医師に伝えられます。**

ぜひこの機会に、定期的な『体重測定+記録』をはじめませんか？

特に高齢者の場合、肥満よりも「痩せ」の方が問題になることが多いです。毎日の小さな習慣から、日々の健康管理に役立ててみてください。



血管診療技師(CVT)認定資格を取得しました

外来看護師 坂本 喜代美

血管は、加齢や生活習慣、姿勢、気温などの影響を受けやすく、臓器よりも早く変化するとされています。その変化は、むくみ・冷え・だるさといった身近な症状として現れますが、原因がわからないまま見過ごされてしまうことも少なくありません。こうした“目に見えにくい血管の変化”を適切に評価し、診療やケアにつなげる役割を担うのが、血管診療技師(CVT)です。

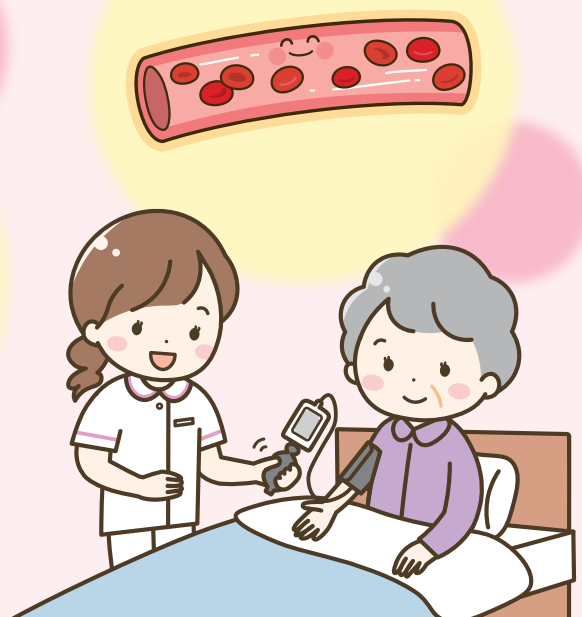
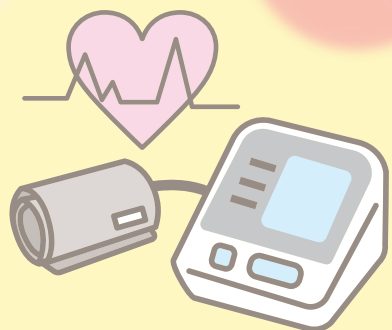
CVTは、日本血管外科学会・日本脈管学会など5学会が2006年から共同認定している資格で、2025年4月時点で全国に1,606名が取得しています。そのうち臨床検査技師が82.7%と大半を占めており、当院でも臨床検査技師のCVTが1名活躍しています。一方で、看護師のCVTは4.0%と全国的にも少ない状況です。

私はこれまで、心臓血管外科領域を中心に、手術室業務、術前・術後管理、心臓カテーテル検査、ペースメーカー植込みなど、血管に関わる医療に幅広く携わってきました。その中で、色の色調・温度・浮腫・皮膚の質感、さらに生活背景といった、看護師だからこそ観察できる情報を、血管の評価とよりの確に結びつけたいと考えるようになり、CVT取得を目指しました。

現在は血管外科手術および外来診療に加え、弾性ストッキング指導にも携わっています。「足が重い」「むくむ」「冷える」といった日常的な訴えの背景に、血管機能の低下が関与していることも多く、専門的な視点の重要性を日々実感しています。

血管外科医師・川上先生から多くの知識や視点を学び、今回無事に資格を取得することができました。今後も小さな変化に丁寧に向き合いながら、血管の健康を守るお手伝いができると思っています。

どうぞお気軽にご相談ください。



「植栽ボランティア」
 ！ご参加ありがとうございました！

ボランティア委員会 委員長 尾関 葉子

昨年11月11日に前年度に引き続き植栽活動を行いました。今回は、「植栽ボランティア」に応募いただいた方々にもご参加いただきました。パンジーやビオラを中心にチューリップや水仙の球根も植えました。春先には、チューリップや水仙の花も加わりより一層華やかに、当院を受診される患者さま・ご家族の方々に癒しをお届けできるのではと思っております。

ご参加いただきましたボランティアの皆様にご挨拶申し上げます。



災害訓練を実施しました

庶務班長 釜谷 直史

11月26日に昼間地震が発生した想定での災害訓練を実施しました。今回の訓練は、事業継続計画書(BCP)に基づき、職員が初動活動できるか検証を行い病院運営に万全を図ることを目的に実施しました。訓練は、災害対策本部を病院内に設置し、各部署から本部に被災状況を報告するという内容でした。各部署は被災状況を速やかに本部に報告する、本部は役割を再確認(被害状況の把握、職員への指示等)するという趣旨で訓練を実施しました。今回、訓練で明らかになった問題点がありますので改善し、災害時には的確に対応できるよう努めてまいります。



職員募集のお知らせ



看護師募集(常勤職員)

- 業務内容** 病棟看護業務
- 資格** 看護師資格のある方
- 就業時間** シフト制 週38.75時間 ※原則週休2日制
日勤:08:30~17:15
準夜勤:16:30~01:15
深夜勤:00:45~09:30
- 給与** 基本給:大学卒 225,800円
短大3卒 218,800円
短大2卒 211,000円
(経験年数により加算有り)
諸手当:賞与(年間4.2ヶ月分程度 6月、12月支給)
:通勤手当(片道2km以上が支給対象、月額150,000円まで支給)
:住居手当(借家は月額最高27,000円支給)
:その他諸規定に基づき支給
- 加入保険** 厚生労働省第二共済組合、雇用保険、労災保険

言語聴覚士募集(常勤職員)

- 業務内容** 医師の指示のもと、身体機能や状態に合わせたリハビリを行い、生活に必要な機能のサポートを行う。
- 資格** 言語聴覚士資格のある方または令和8年3月卒業で言語聴覚士資格取得予定の方
- 就業時間** 08:30~17:15 週38.75時間 ※原則週休2日制
- 給与** 基本給:大学卒 202,800円
短大卒 193,500円
(経験年数により加算有り)
諸手当:賞与(年間4.2ヶ月分程度 6月、12月支給)
:通勤手当(片道2km以上が支給対象、月額150,000円まで支給)
:住居手当(借家は月額最高27,000円支給)
:その他諸規定に基づき支給
- 加入保険** 厚生労働省第二共済組合、雇用保険、労災保険

看護師募集(非常勤職員)

- 業務内容** 病棟看護業務
- 資格** 看護師資格のある方
- 就業時間** 日勤(1日4時間~8時間 週32時間まで)
※要相談
- 給与** 基本給(時間給):1,500円(R7.4.1現在)
諸手当:通勤手当
(片道2km以上が支給対象、月額150,000円まで支給)
:賞与(年2回)
- 加入保険** 厚生労働省第二共済組合、雇用保険、労災保険

保育士募集(期間職員(休業等代替職員))

- 業務内容** 重症心身障害児(者)病棟で患者様の療育を行う。
- 資格** 保育士資格を有する方
- 就業時間** 週38.75時間 ※原則週休2日制
日勤 08:30~17:15
09:00~17:45
早出 07:00~15:45
06:00~14:45
- 給与** 基本給:204,100円
諸手当:賞与
(年間2.6ヶ月分程度 6月、12月支給)
:通勤手当(片道2km以上が支給対象、月額150,000円まで支給)
:特殊業務手当(30,200円)
:その他諸規定に基づき支給
- 加入保険** 厚生労働省第二共済組合、雇用保険、労災保険

このほか、いろいろ募集しています。病院ホームページもご確認下さい。

https://ishikawa.hosp.go.jp/profession/cnt0_000069.html

外来診療担当医表

令和8年2月1日現在

診療科		月	火	水	木	金	
内科	総合診療科	藤永 晴夫	伊勢 拓之	周藤 英将	伊勢 拓之	周藤 英将	
	脳神経内科 (初診)	午前	小竹 泰子		池田 芳久		
		午後		小竹 泰子			
	脳神経内科 (再診)	第1,3週	池田 篤平	池田 芳久		小竹 泰子	池田 芳久
		第2,4,5週					
	内分泌内科			島田 圭司	宮崎 佳子 細 まりや (週替わりで診療)		
腎臓内科	松田 哲久					松田 哲久	
一般内科	伊勢 拓之			藤永 晴夫	伊勢 拓之	松田 哲久	
消化器科		藤永 晴夫		藤永 晴夫		藤永 晴夫	
呼吸器科					山田 真也		
循環器科				廣野 正明			
小児科		清水 眞	本家 一也	清水 眞 黒田 文人	清水 眞	清水 眞	
心臓血管外科		(手術日)	川上 健吾	(手術日)	川上 健吾 (静脈瘤外来)	川上 健吾	
整形外科	9:00~11:30					中澤 祐介	
	10:00~11:30		井上 大輔				
	13:00~15:00						
	13:30~15:30				布谷 信		
消化器外科		平野 晃一	平野 晃一		平野 晃一		
一般外科			津田 基晴	津田 基晴	津田 基晴	津田 基晴	
リハビリ前診察		清水 眞	津田 基晴	津田 基晴	清水 眞	津田 基晴	
皮膚科	14:00~16:00	大石 京介				西尾 次郎	
眼科	14:00~15:30				助川 俊之		
歯科(障害者)	13:30~15:50					丸川 浩平	
専門外来	内視鏡(胃カメラ)	野阪 拓人 (第1月曜) 中本 安成 (第2~5月曜)	藤永 晴夫	平野 晃一	藤永 晴夫	平野 晃一	
	内視鏡(大腸カメラ)	平野 晃一 藤永 晴夫	平野 晃一 藤永 晴夫	平野 晃一 藤永 晴夫	平野 晃一 藤永 晴夫	平野 晃一 藤永 晴夫	

- ①受付時間は 8:30~11:30 (再来患者様は予約制)、午後は 14:00~16:00 です。
- ②予約の取得・変更は、緊急の場合を除き、平日の12:00~17:00 までをお願いします。
- ③専門外来は完全予約制です。予約に関しては外来(0761-74-0700)までお問い合わせ下さい。
- ④もの忘れは、脳神経内科で受け付けています。

編集後記

新しい年を迎え、本誌をご覧いただきありがとうございます。今回も多くの部署から記事をご提供いただき、皆さんの工夫や取り組みが詰まった内容になりました。日々のお仕事の中で、こうした情報発信にご協力いただけることに感謝しています。そして、地域の皆さまには、いつも当院を支えていただき、本当にありがとうございます。皆さまの温かい応援が、私たちの力になっています。これからも、身近で役立つ広報誌をお届けできるよう、職員一同努めてまいります。どうぞこれからも宜しく願いいたします。(H.T)



独立行政法人 国立病院機構

石川病院

〒922-0405
 石川県加賀市手塚町サ150番地
 TEL (0761) 74-0700(代)
 FAX (0761) 74-7642
 地域医療連携室 FAX 74-0782
 E-mail : 305-toiawase@mail.hosp.go.jp
<https://ishikawa.hosp.go.jp/>